

令和元年6月12日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H03237

研究課題名(和文) 旗本高木家文書を中心とした分散資料の統合と共有化に関する研究

研究課題名(英文) Research on integration and sharing of distributed historical materials centering on Takagi Family Documents

研究代表者

石川 寛 (ISHIKAWA, Hiroshi)

名古屋大学・人文学研究科・特任准教授

研究者番号：30612527

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,700,000円

研究成果の概要(和文)：名古屋大学附属図書館およびその他の公的機関や個人が所蔵している高木家文書とその関連文書群について内容調査、目録採取、デジタル撮影に取り組み、文書群相互の関連性を分析して統一した内容分類項目を策定した。この作業を踏まえてデータベースを作成し、高木三家の伝来文書および三家の活動に関連して生成された地域の文書群を一体として把握することを可能とした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、旗本高木家に伝来しながらも、現在は複数の公的機関・個人の所蔵に帰している高木家文書およびその関連文書の総合調査・整理・分析に取り組み、統一した分類項目の下、データベースを構築することで、デジタル上での統合を達成した。これにより旗本高木家文書については、現在の所有者の枠を超えた横断検索と貴重資料のデジタル画像閲覧が可能となり、学界共有の研究資源として利用できる環境を提供した。

研究成果の概要(英文)：We worked on contents research, list create and digitally shoot of Takagi family documents and related documents held by Nagoya University Library and other public organizations and individuals. And, we made an analysis of the relationship between the document groups and created a content classification item that is unified, and clarified the overall structure of the document groups. Based on this work, we made a database and made it possible to grasp documents that were once inherited by the Takagi families and local documents generated in connection with Takagi's activities as one.

研究分野：日本史

キーワード：史料研究 旗本高木家 高木家文書

1. 研究開始当初の背景

美濃国石津郡時・多良両郷内に知行を与えられた高木家は、西・東・北の三家からなり、交代寄合として大名並の殊遇を得て知行所に在住し、明治維新まで同地を支配し続けた旗本である。高木家は、江戸幕府の命により、近世を通じて、木曾三川流域の治水を担ったという特色を有する。その伝来文書群は、名古屋大学附属図書館を中心に、10万点近くが現存しており、旗本文書としては傑出した規模と内容を有しているが、複数の公的機関や個人に分散所蔵されており、またそれらの目録データは不統一ないし未作成であるため高木三家文書を一体として検討・利用できる環境にはなっていない。

2. 研究の目的

資料目録は、各文書群が有する性格に応じて作成されるべきであるが、本来一体であった文書群もしくは一体として把握すべき文書群については、現在の所有者の枠を超えた統合を進めなければ、それらが本来もっていた構造や性格を理解するには至らないと考える。このため分散している膨大な高木家関連文書群の所在把握に努め、統一した分類項目にもとづき整理をおこない、文書群の体系化と共有化を高度に推進することを目的とした。また、文書群が本来もっていた全体構造や性格について理解を深めるとともに、高木家の支配と密接に関わる地域資料についても一体のものとして内容把握をおこない、旗本領主制や近世・近代地域社会研究の基盤強化にもつなげていくことを目指した。

3. 研究の方法

分散した高木三家文書の所在把握に努め、文書群の伝来を含めた内容調査、目録の採取とメタデータの付与、デジタル撮影を実施した。次に収集した文書群相互の関連性の分析と統一した内容分類項目を策定し、横断的検索機能をもつ高木家文書デジタルライブラリーに登録することで、文書群の統合と共有化を図った。あわせて高木家の支配と密接に関わる地域の資料についても、高木家の活動に関連して生成された文書群として統一的に把握することを目指し、同様の方法で調査・分析をおこない、高木家文書デジタルライブラリーへの登録をおこなった。

4. 研究成果

本研究では、各地に分散する旗本高木家文書について、(1)西高木家文書、(2)東高木家文書、(3)北高木家文書、(4)高木家関係文書、に大きくわけて、それぞれ調査・整理、撮影・収集、目録作成および全体構造の分析をおこなった。これと並行して、(5)高木家の支配と密接に関わる地域資料の内容把握にも取り組み、(6)それらを統合したデータベースの構築とウェブ上での公開をおこなった。

(1)西高木家文書の調査と整理

旗本高木家文書の中核となる名古屋大学附属図書館所蔵高木家文書については、『高木家文書目録』に収録されている約5万2000点をデータベース化するとともに補遺文書の整理を実施し、他の文書群と関係の深い資料についてデジタル撮影を進めた。また、高木修理宛て水戸宰相宗翰書状、天保再建屋敷図など新たに発見され附属図書館の所蔵となった新出資料22点についても調査し、年代比定をおこなった。

附属図書館所蔵文書を補完する西高木家文書として、水野氏が収集した文書113点(水野家文書) 福長氏より旧上石津町(現大垣市)に寄贈された文書2219点と屋敷図1枚(福長氏旧蔵西高木家文書) 筒井氏が収集した文書350点(筒井稔氏所蔵高木家文書)を調査し、それぞれ『高木家文書目録』の分類項目を適用して整理した。附属図書館所蔵文書より古い時期に関する文書もあり、いずれも高木家に関する史実を押さえるにおいて重要な資料であることを確認した。

西高木家陣屋跡(大垣市上石津町宮、国史跡)に建つ主屋の襖から発見された下張文書(西高木家陣屋跡主屋襖下張文書)および海津市歴史民俗資料館へ寄贈された岡田氏収集の文書(岡田家文書)の中から西高木家に関する文書を確認した(848点、413点)。いずれも近世後期の高木家当主に宛てた私的な書状が大半を占め、特に女性の書状が目立つのが特徴である。

名古屋城振興協会が所蔵する、高木家当主に宛てられた尾張徳川家当主の直状2通を撮影した。高木家の家格を示す徳川御三家当主からの直状の挨拶状類は、これらを含めて現在までに10通(尾張徳川家から2通、紀伊徳川家から4通、水戸徳川家から4通)を確認しており、そのうち8通までを撮影し、データベースに登録することができた。

西高木家が戦後も処分することなく保持してきた近世・近代の文書群を調査し、234点を確認した。近世文書は、自家の系図や由緒書など家に関わる文書を収集した黒漆文庫が中心をなしており、その現秩序復元に向けた分析をおこない、成果を論文として発表した。近代文書では、史料編纂掛や展示会への貸出関係文書が見つかった。東高木家の貸出関係文書については筒井稔氏所蔵東高木家文書の中に現存しており、西高木家についても同様の資料が見つかったことで、戦前における高木家文書の活用についての研究が可能となり、成果を論文としてまとめた。

大垣市からの情報提供により、岩須自治会が所蔵する山論絵図と書状2通の撮影をおこなった。絵図は高木家と青木家の相給になる岩須村の山論に関する裁許絵図であり、2通の書状も高木家に関係のあるものであった。また、明覚寺（大垣市上石津町上）が所蔵する近世後期の記録2冊を修復・撮影した。1冊は葬儀や法事のほか、家督や養子の祝儀、江戸参向・帰国祝いなど、高木三家との関わりを記録した事務日記、もう1冊は本山や高木家からの書状、達書、申渡書、願書、触書、廻状などを書き留めた留記である。

(2) 東高木家文書の調査と整理

現在は個人所蔵となっている東高木治水文書について3835点を整理・補修し、デジタル撮影によりデータ収集をおこなった。内容的には、宝暦治水の実施過程を示す勘定帳類のほか、寛文期の論所見分大型絵図や宝暦二之手出来形図、10枚組大型川通絵図など、従来知られていなかった特徴ある河川図を確認することができた。また、享保期に遡る川通文書の管理簿や文政期のまとまった川通御用日記の存在など、附属図書館所蔵文書を補完する重要な情報が数多く含まれており、木曾三川流域はもとより、近世史研究にも大きな貢献が期待される。

名古屋市蓬左文庫が所蔵する美濃高木家文書について、名古屋市蓬左文庫と名古屋大学附属図書館との間で「名古屋市蓬左文庫所蔵「美濃高木家文書」の画像利用に関する覚書」を取り交わし、2659点の目録を整理した。

美濃高木家文書を補完する東高木家文書として、名古屋大学附属図書館が新たに入手した留守居方御用状留等5冊、筒井氏が収集した文書126点、大倉精神文化研究所が所蔵する文書50点、国立臺灣大學圖書館が所蔵する文書44点、広栄寺（大垣市上石津町時山）に伝わる文書263点を確認した。年貢免状や多良屋敷図、近代の文書貸出記録、琉球使節参府御用のための国役金上納に関わる文書、18世紀後半の時山道場に関わる争論関係文書など、他ではみられない特徴的な文書があり、それぞれ美濃高木家文書との関連性を分析して内容分類をおこなった。なお、台湾大学所蔵文書は保存状態が必ずしも良好ではなかったため、台湾大学と協力の上で修復を施した。この他、徳川林政史研究所に残された美濃高木家文書の一部についても、1点ごとの細目録を採取し、1000点余の内容を確認した。

以上により、現存する東高木家文書の全体像把握に向けた土台を築くことができた。

(3) 北高木家文書の調査と整理

個人所蔵となっている北高木家文書約4100点について、点検作業を実施し、目録化に向けた準備を整えた。また、この他にも小寺家文書に3点、筒井稔氏所蔵高木家文書に2点の北高木家文書が含まれていることを確認した。

(4) 高木家関係文書の調査と整理

関ヶ原町歴史民俗資料館が所蔵する資料の中から高木家文書132点を確認した。これまで数えるほどしかなかった、元禄国絵図作成に関する書状や国境証文・小絵図が大半を占めた。また、高木三家が幕府へ提出した文書が国立公文書館内閣文庫に伝わっていることがわかり、調査した結果、参勤交代に関わる文書11通、明細短冊10枚、隠居・家督相続に関わる文書1通、江戸屋敷に関する文書4通、大老または老中に宛てた呈書75通を確認した。この他、筒井氏が所蔵する文書の中から、多良郷の小山瀬村や上原村から高木家役人に提出した願書等の村方控と思われる文書9点を確認した。

(5) 地域資料の調査と整理

高木家の知行所である時・多良郷および木曾三川流域の地域資料についても、高木家の活動に関連して生成された資料群として調査・整理をおこない、内容の把握に努めた。

西高木家の旧家臣の家筋にあたる小寺家が所蔵する「小寺家文書」（約9000点）、揖斐川中流域で活躍した豪農日比家の「日比家文書」（約6000点）、九里半街道沿いの牧田村吉田家に伝来し、牧田川の治水・利水に関する文書・絵図を数多く伝える「吉田家文書」（約9000点）を整理し、目録を公開した。この他、旗本領主支配の研究を豊富化する情報資源として、高木家の陣屋がおかれた宮村に隣接する多良郷上原村の地方資料を収集した。

高木家が木曾三川流域の治水を管掌したことから、流域絵図も積極的に調査・収集した。一つは、美濃国大垣・加納・長瀬筋の河川村絵図25枚。二つは、明治以降の改修工事に関する絵図9枚。三つは、高木家文書以外の河川絵図で、近世後期と推定される木曾川通図、木曾川丈絵図、西海辺土取場絵図、天白川通東海辺共図などがある。

(6) 高木家文書デジタルライブラリーの構築

これまで調査・整理・収集してきた文書の情報について、伝来を踏まえて西高木家・東高木家・北高木家・高木家関係に整理し、それらを「旗本高木家文書」として統合したデータベースを構築した。その際、名古屋大学附属図書館『高木家文書目録』の分類項目を基準に、文書群同士の関連性を分析して、統一の分類項目と目録フォーマットを策定した。これに地域資料を統合し、ウェブ上での横断検索を可能とする「高木家文書デジタルライブラリー」を公開した。登録・公開したメタデータは8万261件である。登録文書群は表の通りである。

旗本高木家文書	西高木家	高木家文書	名古屋大学附属図書館所蔵
		高木家文書（新規分）	名古屋大学附属図書館所蔵
		水野家文書	名古屋大学大学院人文学研究所所蔵
		高木家所蔵文書	個人蔵
		福長氏旧蔵西高木家文書	大垣市所蔵
		西高木家陣屋跡主屋襖下張文書	大垣市所蔵
		岡田家文書	海津市所蔵
		筒井稔氏所蔵高木家文書	個人蔵
		名古屋城振興協会所蔵資料	一般財団法人 名古屋城振興協会
		多聞櫓文書	国立公文書館所蔵
		小寺家文書（Ⅰ）	個人蔵
	東高木家	東高木家文書	名古屋大学附属図書館所蔵
		美濃高木家文書	名古屋市蓬左文庫
		東高木治水文書（一部公開中）	個人蔵
		筒井稔氏所蔵東高木家文書	個人蔵
		大倉精神文化研究所所蔵高木家文書	大倉精神文化研究所所蔵
		広栄寺文書	広栄寺所蔵
		國立臺灣大學圖書館所蔵東高木家文書	國立臺灣大學圖書館所蔵
		多聞櫓文書	国立公文書館所蔵
	北高木家	北高木家関係文書（準備中）	個人蔵
		多聞櫓文書	国立公文書館所蔵
	高木家関係	関ヶ原町歴史民俗資料館所蔵高木家文書	関ヶ原町所蔵
		筒井稔氏所蔵高木家関係文書	個人蔵
小寺家文書（ⅡⅢ）		個人蔵	
沢田村日比家文書		名古屋大学附属図書館所蔵	
流域絵図	河川村絵図	名古屋大学附属図書館所蔵	
	木曾三川改修図	名古屋大学附属図書館所蔵	
	河川絵図（高木以外）	名古屋大学附属図書館所蔵	

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計8件)

- 石川 寛、近代における高木家文書の調査と活用、名古屋大学附属図書館研究年報 16、2019年、25-36、査読有、<http://doi.org/10.18999/annul.16.36>
- 石川 寛、國立臺灣大學圖書館所蔵東高木家文書目録、名古屋大学附属図書館研究年報 16、2019年、17-23、査読無、<http://doi.org/10.18999/annul.16.17>
- 秋山 晶則、近世河川災害と地域の対応、歴史評論 806、2017年、37-50、査読有
- 秋山 晶則、近世における木曾三川治水事業、河川 850、2017年、7-9、査読無
- 池内 敏、台湾大学所蔵の東高木家文書について（調査概要報告）、名古屋大学附属図書館研究年報 15、2018年、19-23、査読無、<http://doi.org/10.18999/annul.15.19>
- 石川 寛、広栄寺文書目録、名古屋大学附属図書館研究年報 15、2018年、25-57、査読無、<http://doi.org/10.18999/annul.15.25>
- 石川 寛、旗本西高木家伝来の黒漆文庫の復元、名古屋大学附属図書館研究年報 14、2017年、13-34、査読有、<http://doi.org/10.18999/annul.14.34>
- 石川 寛、高木三家と埋御門「西高木家陣屋と高木家文書」補遺、名古屋大学附属図書館研究年報 13、2016年、64-70、査読有、<http://doi.org/10.18999/annul.13.70>

〔学会発表〕(計1件)

- 秋山 晶則、近世河川災害と地域の対応、歴史科学協議会第50回大会、2016年

〔図書〕(計6件)

- 石川 寛、旗本高木家と木曾三川流域治水、名古屋大学附属図書館・附属図書館研究開発室、2018年、44
- 石川 寛、吉田家文書目録、大垣市教育委員会・名古屋大学附属図書館、2018年、503
- 石川 寛、海津市歴史民俗資料館所蔵岡田家文書目録、海津市教育委員会・名古屋大学附属図書館、2017年、87
- 石川 寛、旗本高木家の明治維新、名古屋大学附属図書館・附属図書館研究開発室、2017年、24

石川 寛、山田裕輝、旗本高木家の幕末、名古屋大学附属図書館・附属図書館研究開発室、2015年、24
長屋 隆幸、石川 寛（編集）、高木家の武、名古屋大学附属図書館・附属図書館研究開発室、2015年、24

〔その他〕

ホームページ等

高木家文書デジタルライブラリー

https://libdb.nul.nagoya-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000011Takagi

講演

石川 寛、高木家文書 治水資料の宝庫、平成29年度人文学研究科シンポジウム、2018年3月10日

石川 寛、旗本高木家の明治維新2（高木家文書連続講座2）、上石津地域事務所、2017年11月11日

石川 寛、旗本高木家の明治維新1（高木家文書連続講座1）、上石津地域事務所、2017年10月28日

秋山 晶則、木曾三川治水史をめぐる成果と課題、大垣市輪中館、2017年5月27日

秋山 晶則、輪中と治水 - 木曾三川流域史管見、輪之内町文化会館、2017年5月11日

石川 寛、幕末の高木家2 高木家の間道守衛（高木家文書連続講座2）、上石津地域事務所、2017年2月4日

石川 寛、幕末の高木家1 高木家と彦根藩（高木家文書連続講座1）、上石津地域事務所、2017年1月21日

秋山 晶則、交代寄合高木家の役儀と地域社会（大垣市文化財保護協会講演会）、大垣市スイトピアセンター、2016年6月26日

石川 寛、高木家と埋門（大垣市上石津文化財保護協会講演会）、大垣市上石津地域事務所、2016年5月18日

秋山 晶則、江戸時代の山と川 北高木家関係文書の世界（高木家文書連続講座2）、大垣市上石津地域事務所、2016年3月13日

秋山 晶則、宝暦治水と高木家 治水の歴史と歴史意識（高木家文書連続講座1）、大垣市上石津郷土資料館、2015年12月5日

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：秋山 晶則

ローマ字氏名：(AKIYAMA, Masanori)

所属研究機関名：岐阜聖徳学園大学

部局名：教育学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：40293691

研究分担者氏名：斎藤 夏来

ローマ字氏名：(SAITO, Natsuki)

所属研究機関名：名古屋大学

部局名：人文学研究科

職名：教授

研究者番号（8桁）：20456627

研究分担者氏名：池内 敏

ローマ字氏名：(IKEUCHI, Satoshi)

所属研究機関名：名古屋大学

部局名：人文学研究科

職名：教授

研究者番号（8桁）：90240861

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。